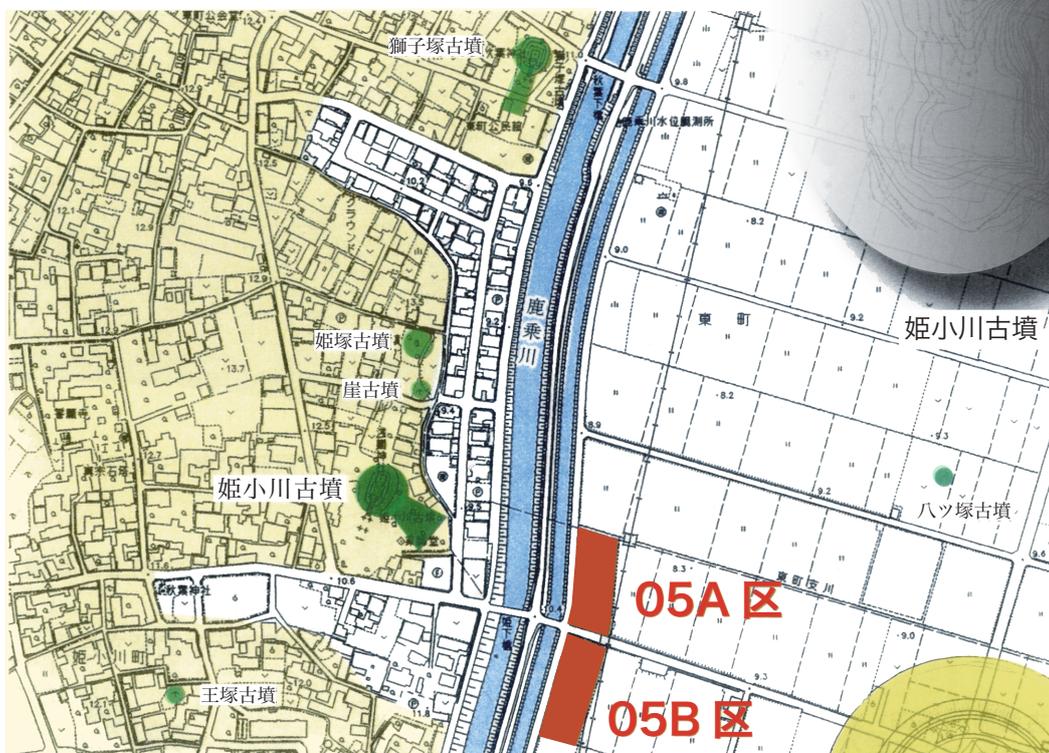


ひめ した

姫下遺跡現地説明会資料

2006年2月11日(土)



『新編 安城市史 10 資料編考古』より

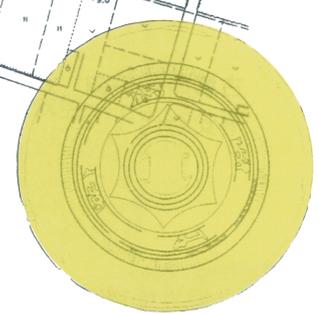
姫下遺跡

主催 (財) 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

支援 岡三リビング株式会社

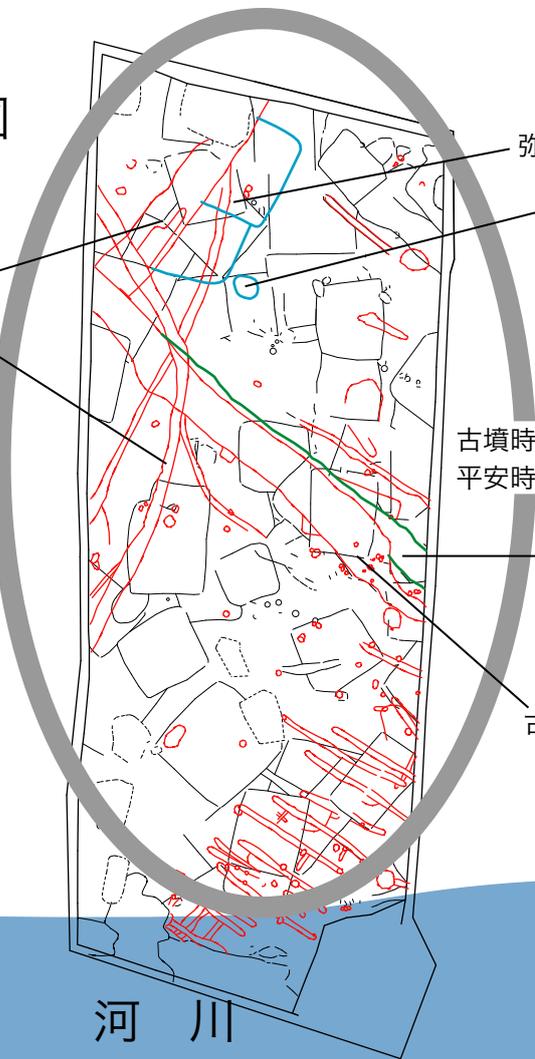
内行花文鏡
(八ツ塚古墳出土)



姫下遺跡主要遺構配置図

1/500

05A区



弥生時代中期竪穴住居

弥生時代中期土坑

古墳時代後期溝

古墳時代前期
平安時代
竪穴住居群

古墳時代中期溝

古墳時代後期溝

河川

05B区

古墳時代前期
平安時代
竪穴住居群

掘立柱建物

古墳時代中期土器集積

江戸時代溝 (SD02)

古墳時代中期土器集積

古墳時代中期竪穴住居

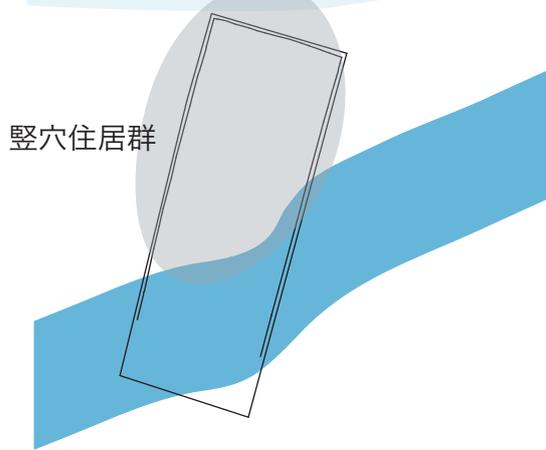
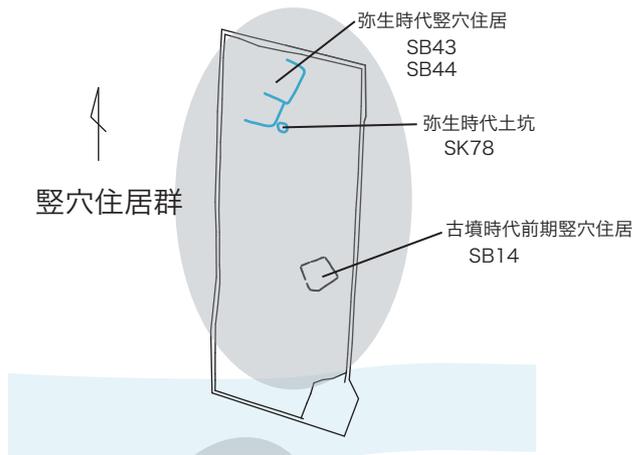
河川

古墳時代中期土器集積

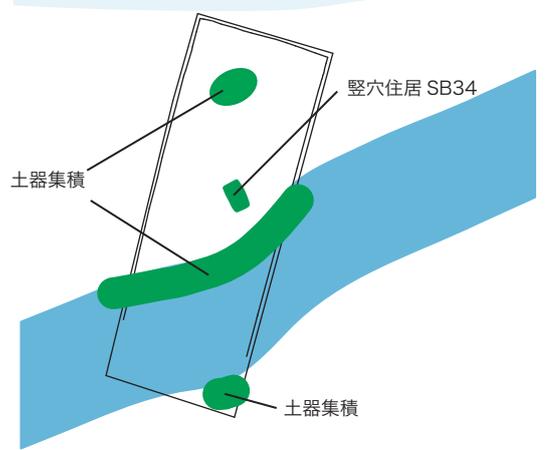
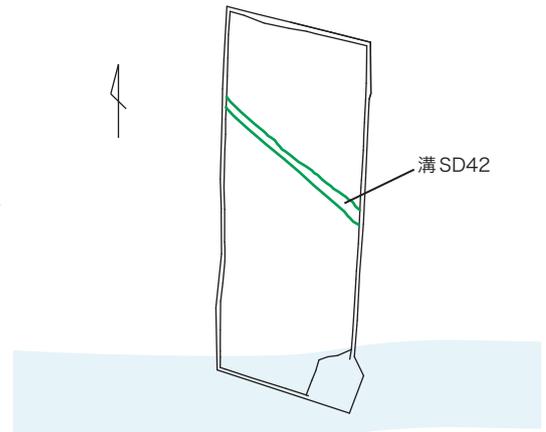
- 古墳時代前期
平安時代
- 古墳時代後期
- 古墳時代中期
- 弥生時代

遺跡の移り変わり

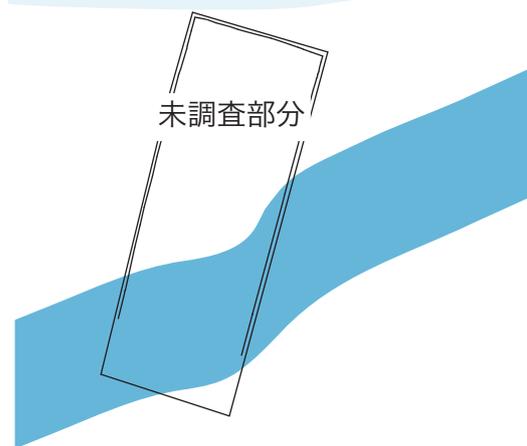
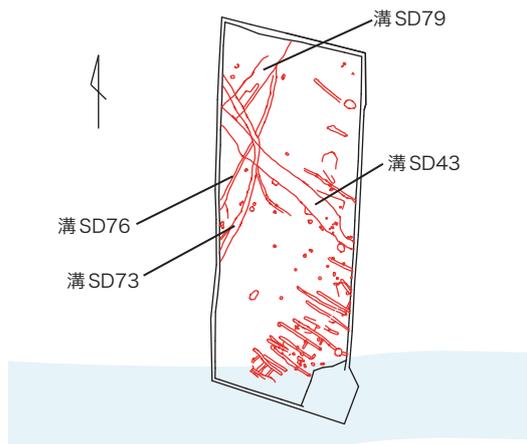
- ・ 弥生時代中期後葉（紀元前1世紀）
- ・ 古墳時代前期（4世紀中葉～後葉）



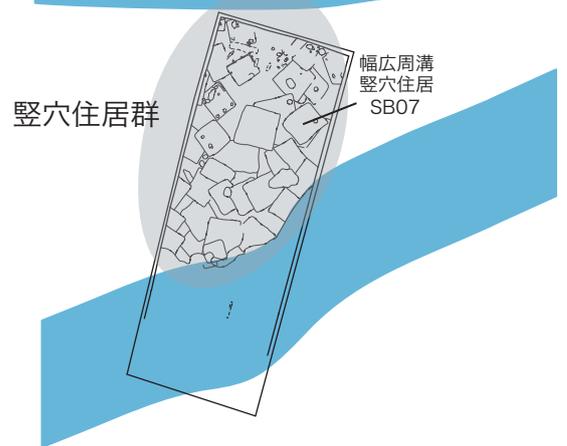
- ・ 古墳時代中期（4世紀末～5世紀前葉）



- ・ 古墳時代後期（7～8世紀）



- ・ 平安時代（10世紀）



姫下遺跡の位置

姫下遺跡は安城市姫小川町字姫下に所在します。現在の鹿乗川東岸に位置し、矢作川によってできた沖積地に立地します。標高は約7mで、西側には碧海台地が広がっています。この台地上には、前方後円墳である姫小川古墳をはじめ、獅子塚古墳、姫塚古墳、王塚古墳などの古墳が並んでいます。一方、姫下遺跡のある沖積地上では、東側に八ツ塚古墳、北側は人面土器が出土した亀塚遺跡、南側に古代木簡が出土した下懸遺跡などがあります。

発掘調査の経緯

発掘調査は、鹿乗川河川改良事業に伴う事前調査として、平成17年11月から平成18年3月までの予定で実施しています。面積は3470㎡で、道路をはさんでA区（北側）とB区（南側）に分けて行っています。

発掘調査の成果

調査の結果、弥生時代から近代までの様々な遺構や遺物が発見されました。特に、古墳時代初頭と平安時代では、良好な状態で遺跡が残っていました。

1 弥生時代中期

A区の北西部で、弥生時代中期（紀元前1世紀）の竪穴住居が2棟と土坑1基が見つかっています。弥生時代の集落はA区の北側に広がっていたと予測されます。

2 古墳時代前期

古墳時代前期（4世紀中～後葉）では約10棟の竪穴住居が発見されました。

3 古墳時代中期

A区では、古墳時代中期（4世紀末～5世紀前葉）の溝が見つかっています。溝SD42からは多量の土器が見つかっています。B区では、古墳時代中期の竪穴住居1棟、河川跡、土器集積などが確認されました。河川跡（NR01）では、その斜面から小型壺や高杯などの大量の土器が、また中央部からは加工された木材が出土しています。B区の北部では、土器や焼けた木材が広がって出土しており（土器集積）、一部の地面が赤く焼けた状態になっています。

調査地点は、建物跡が少ないことから居住域とは考えにくく、姫小川古墳に関連する祭祀場であった可能性もあります。

4 古墳時代後期

A区で7～8世紀頃の溝が多数見つかりました。

5 平安時代

A区とB区で、平安時代（10世紀頃）と推測される竪穴住居が約70棟確認されました。竪穴住居は一辺が3～6mの方形または長方形の形で、一部の住居では床を大規模に整地して造られたもの（幅広周溝を持つもの）があります。住居内から灰釉陶器が少量ですが出土しています。この時期が最も集落として栄えた時期と考えられます。

6 江戸時代以降、現在まで

A区とB区で、江戸時代から近代まで（19世紀頃）の水田などに伴う用排水路と思われる溝が見つかりました。また、三河地震と推定される地震の痕跡（液状化現象の跡）も発見されました。



古墳時代中期の溝（A区 SD42）の土器出土状態



A区第3面の遺構（古墳時代前期～後期）



A区第2面の遺構（平安時代の竪穴住居群）



平安時代の竪穴住居（A区 SB07）